

第276回 令和8年8月25日（火）

「文系も絶対必要です」

山口周さんの「コンテキスティーダーシップ」という新書を読みました。新書は当たり外れが多く、自分の意見にマッチするものと、どう考えても違うだろと思うものがあります。私は「コンテキスティーダーシップ」はとてもマッチしましたし、将来リーダーになってほしいみなさんにはぜひともお薦めの1冊です。

2050年には人口が1億人、みなさんが還暦を迎えるころには人口は7000万とか8000万になると言われています。ただこれも感染症や大規模災害によって変動しますし、海外へ行く、来るといった社会増、社会減がどれくらいあるのかわかりませんからはっきり予測はできません。

文部科学省の予測では文系人材が900万人余剰となり、理系人材が2000万人不足となっています。そのため理系人材の確保に力点を置き、文理融合ですべての生徒にデータサイエンスなどを学ばせる構想があるようです。

「コンテキスティーダーシップ」ではリーダーがストーリーを語る大切さを説いています。確かに理屈で人は動きません。感情が動くことで他人を動かすことができます。そこで大事になるのはストーリーを共有できることです。

いまのところAIの文章は感心することはあっても心を動かすとは思えません。人間が本を読み、「国語」をしっかり勉強することで説得力のあるストーリーを作ることができますし、さらに「英語」を勉強することで世界の人と話せるようになります。そして「社会」を勉強することで先人たちの知恵をストーリーに加えることができます。

AIに対するプロンプトだけが上手になっても世界は良くなりません。倫理や哲学でもものの見方や考え方を学んだうえで「どう表現し、伝えるか」がもっとも重要になると思っています。

リーダーには「文系的要素」が必須です。もちろん文理どちらも大切なのですが、文系人材が余剰となるから文系が必要ないという理論は明らかに誤りだと思います。

紙の本を読む習慣がどんどん減っています。若い人の時間はスマホなどの電子機器に奪われていく一方です。でも本屋に行って、知らない本と出会い、自分と合わない意見と触れ合うことはとても大事なことです。エコーチェンバーで賛成意見にだけ囲まれていると人間が狭くなります。

狭い視野の人間はリーダーとしてストーリーを語るができなくなると思います。